

複数回献血者の HIV 検査が陽転した事例の概要について

医薬食品局血液対策課

1. 概要

- 11月初旬、献血血液の HIV スクリーニング検査で抗体陽転が確認され、遡及調査を開始した。
- 前回献血時（本年2月）の保管検体について個別 NAT を3回実施したところ、1回のみ陽性の結果が得られた。
- 前回献血血液を原料として、赤血球製剤及び新鮮凍結血漿が製造され、2医療機関に納入、各1名に投与されていたことが確認された。
- 前回および今回の献血時の問診票には HIV のリスク行動等（※）に関する申告はなく、HIV の自己申告もなかった。
※献血者に対する問診票では、検査目的、6ヶ月以内の男性間性的接触の有無等に関する設問があり、該当する方に対しては献血を断っている。

2. 今後の対応

- 引き続き、赤血球製剤及び新鮮凍結血漿を投与された患者の遡及調査を実施する。
- 遡及調査の結果等は、運営委員会及び安全技術調査会へ報告。今後の対策について検討する。